

# OPINION

コロナ危機のため失業した人は別の仕事を探そうとしましたが、うまくいかず、それまでの仕事に戻ることもできません。また移動制限のため国境を越えられず、仕事を探すことが困難です。スイスのように季節労働者を必要とする国では、冬季はとくに労働力の自由な移動に依存す

## ナヒゲーター

るため、この問題は大きな障害となつていきます。

コロナまん延の最前線では、シンガポール、日本、韓国などと同じように着実にワクチン接種キャンペーンがスイスでも進んでいます。EU諸国では、ポルトガル、スペイン、イタリアなどで、ワクチン接種反対運動が起こっていますが(その多く

### パンデミックから2年 ヨーロッパ(下)

34

リポート コロナ禍に立ち向かう

## 世界のいま~日本への提言~

(編集・翻訳 リーム中産連)

は誤った情報、誤解によるもの)、EU以外の国々への渡航は、9月初旬にカナダへ再開されています。9月の新学期が始まってからは感染者が急増することはなく、この感染拡

た。とはいえ1年前に比べると、レス変異株はほぼ「インフルエンザ的」であり、感染力は非常に強いものの、

これらを考慮すると、オミクロン変異株はほぼ「インフルエンザ的」であり、感染力は非常に強いものの、

ば、この危機の終末がはっきりと見えてくるでしょう。とはいえ「パンデミック対策」に対する疲労感が高まっており、早く平常に戻ることが必要です。実際、不必要で過剰な予防措置に対する憤りが、とくに2回の予防接種を受けた大多数の国民の間に蓄積されています。その結果、将来、健康関連のリスクに対する意識が高まり、感染率は依然高くとも、健康維持のための支出は軽減され、しばらくは、ある程度強制的に通常の状態に戻るのではありませんか。そうなれば、経済や社会全体が危機的状況から脱し、エネルギー不足やサイバー問題を含む次の危機への対応への長期計画の見直しができるようになると思えます。

# 次の危機への対応に備えて

大は過去のものとなるように思われた時期もありました(日本は、この時期たいへんだったのは承知しています)。

制限、スキー場もオープン(スキー場内レストランも開店)、重要な商談もグリーンパス(ワクチン接種済または回復の証明)があれば、対面して行うことができ、規制は緩やかです。さらに隔離期間は1年前よりもはるかに限定され、短時間になっています。ドイツやオランダなど一

入院の危険性は非常に低く、その結果、集団免疫がすすむ可能性があるという事実から、コロナ・ウイルス感染拡大は徐々に消えつつあるという結論を示していないでしょうか。

【スイス ルジエロウイスレル】

しかし、これはオミクロン変異株が出現する前の話でした。オミクロン株による感染者数が急増し、渡航制限が再開されました。EU圏内で

た。これらを考えてみると、オミクロン変異株はほぼ「インフルエンザ的」であり、感染力は非常に強いものの、

この直近の変異株が作りだす抗体が、他のすべてのウイルス変異株に

【スイス ルジエロウイスレル】